

權を有せないとあつては、親たるの甲斐がないのみならず、子の性質を知らない人に委ねばならぬ不都合になります。併しこれは成年の親たるべき場合でして、若し未成年者が子を産だときは、その父たる未成年者に對して親權を行ふ者がこれに代つて親權を行ふのです。

次に親權を行ふ人に就きて述べます。原則としては家に在る父ですが、私生子の如く父の知れぬとき、父が死亡したとき、又は分家を爲し、廢絶家を再興し、他家の養子となり、養子が離縁を爲し、入夫が離婚を爲したやうな時にその家を去つたとも、又は不在、心神喪失等によつて親權を行ふことの出来ない時は、家に在る母が行つてよいのであります。

繼父母又は嫡母も親權を有しますが、これ等の者は子と自然の血縁を有しませんから、愛情に乏しく相敬視することがあります。それでこれ等の場合に親權を行ひますには、後見に關する規定を準用することゝなつてゐます。

名士の家庭

(井上文學博士の家庭)

和洋の家

龍東生

紅塵滿々たる帝都の北隅、小石川區表町百〇八番地に日本家と西洋館との二棟より成れる門がまへの家あるを見る。これ即ち我學界のオーソリティーとして知られし文學博士井上哲次郎先生の住宅なり。東都に至る所人馬織るが如き狀況なるも、こゝら邊りはいと靜かにして樹木は森々と生ひ繁り、秋の夜半にすだく虫の音は、武藏野の昔を忍ばしめて餘りあり。博士の居間は西洋館の長方形なる二階の一室にして、正面に掲げたる「發潛然之氣」の額は、博士の恩師なる中村敬宇先生の書かれしものなり。その日本造の家は、多く召使の住居及び炊事等に當たるものゝ如し。博士には三男三女ありて、長女雪子嬢は文學士吉田熊次氏に嫁し、他は悉く家に在りて、夫人(縫子)の下に養育されつゝあり。而して此の他に書生一人下女二人守一人を召使へるが、これ等は皆地方の小學校教員に人擧を依頼せるものにして、口入屋より身上の知れざる者を雇ふが如きことは絶へてなきや。この點は何人も注意すべきことにして、身元性質等の知れざるものを使用し、少なからざる迷惑を來すことは世上塵々耳にする所なり。殊に子守の如きは幼児の養育上最も大切なるものなれば、充分なる注意あらまほしきものなり。

婦人 夫人と家庭

家政の上手下手によりて、一家をして春の如く賑はすことも又秋の如く林しくすることも出来るものなれば、吾人の生活上家政は最も大切なものなり。而して家を治むるには婦人は重要な地位を占むるものなり。賢母良妻と云へるも畢竟家政を上手に行ふことを得べき婦人を謂へるものにして、女子教育の本義も亦茲にあるなるべし。博士の家庭が清かなりと云へる世評の存するも、つまり縫子夫人の濟家に巧なるによるならん。夫人は鋭意育児に盡瘁され、又夫の爲めに一身を擧げられつゝあり。

夫人に就きては美談の多くあることならんが、その中夫人のこゝとをよく知れる人より聞きし一二を記さんに。曾て博士が外國へ留學されしとき、夫人はよく留主宅を守られ、傍ら漢學を修養されしのみならず、又婦人としての道を通り學び、上流社會の夫人として恥かしからぬに至られしよし。されど、夫人は謙讓にして少しも人に高振らず、恰かも他人に對しては何物をも知らざる如くなりしと。今日婦人の通弊として少し學問を爲し、又は學者の妻となれば、兎角鼻にかけたがる風あるも、こは婦人の美德を損するものにして、最も慎まざる可らざることなり。世の婦人たるもの此點に於て夫人に大に鑑みて可なり。

育 兒 法

子が訪問せし時は多忙を極められし最中にて群しきことを聞く能はざりしも、一二に就き語られし點を左に記さん。衣服、衣服は夏は單衣冬は綿入れと言ふ如く四季によりて各々異なるも、こは氣候上よりのことにして時々例外のあることあり、

例へば「土用中半に秋風ぞ吹く」と云へる如く、盛夏の候にても單衣にては寒き時あり、かゝるときは夏なりとて單衣のみに限らず、裕にても何にても溫度相當の衣類を着するを可とす。又冬にても暖かき日には綿入に限らず、それ相應の物を着せしめざる可らず、されば博士は常に寒暖の度によりて衣服を着換へさしむるよし。斯の如きは何人も知れる所なるも、實際に行ふ者少し。衛生上注意あらまほしきことにこそ。

通學、兒童を學校に通はずに運動上遠路をよしとなすものあるも博士はこれに反して近路を採らるゝなり。その理由は、全く便利に基くものにして、兒童の送り向又は急用の場合に於て近路は大に都合よし、運動は他に種々の方法あれば不便を斥けてまで遠く通學さしむる必要なし。故に博士は、二番目の令嬢は第二高等女學校、他は濶川小學校及び幼稚園等何れも近路の學校を選ばれたるなり。

起伏、人によりて夜十二時又は一時頃まで眠らず、朝は太陽の七間も東天に昇るも尙ほ起さる者あり。衛生上より見るも一家の規律の點より云ふも、甚だ惡しきことならずや。古より節儉を重ずる人は、朝早く起ると遅く起るとを以て家の興亡の兆とまで云へる程なれば、大に注意すべきなり。博士はこのことをよく守られ、冬と夏とによりて多少時間を異にせるも、夏は五時半より六時半、冬は七八時の間に必ず起き、夜は十時より十一時迄に寢に就かるゝよしなり。

運動、小兒ほど運動の好きなものはあるまじ。小兒に運動をなさしめざれば、彼等は生活の大半を休止せしめられたるなり。故に

充分適宜の運動を興へ、その生々の發育を完ふせしむべし。幼稚園學校等に於ては相當の運動法を設けたるも、家庭に於てはその生活の程度によりて、この設備を果すこと能はざるものあり。されど、運動はあながち多くの金を要せず、少金にて比較的完全に近きものを選ふことを得べし。而して博士の住宅の周圍には樹木森々と生ひ繁り、空氣清らかなるゆへ恰も小公園の如き觀を呈し、小兒の遊戯するには最も適當せり。庭園にはブランコニテ所ありて、小兒は何時も噂々と遊び戯むれり。

又博士は知識開發の方法として成るべく實物を觀せしむる方針を取られ、休日には動物園博物館等を兒童と共に參觀せらるるよし。而して幼稚の兒童にして實物を觀すること能はざるものに於ては、多くの畫帖を製しをきて示し給へり。この方法はさすが教育者たる博士程ありて、幼兒教育には最もよく行届けりと云ふべし。殊に田舎に於ては實物教授は困難なるを以て、常に畫帖の如きものにより、兒童の知識開發に注意するには、家庭教育上大切なることなり。

世間往々兒童の教育を學校のみに放任して、家庭に於て少しも顧みざるものあり。こは多く下層社會の教育なき人に於て有するものなるも、時として相當の教育あり且つ中流以上に位せる家庭に於て見ることもあり。無責任の甚しきものにして、愛兒を不良に陥らしむる親と云はざる可らず。嘆すべきの至りならずや。學校に於て如何に完全なる教育を施すも、家庭に於てこれを打消すに於ては何等の效なく折角の學校教育も水泡に歸するなり。親は子を養育するは當然の義務にして、又一面より見れば權利と云ふこ

とを得べし。この義務を負ひ權利を有する親にして、相當の教育を施さざるは、これ權利を履行せざるの罪あるのみならず、又人としての道を盡さざるものなり。而して博士の青兒に留意するは勿論、夫人も銳意をこゝにそゝがるもの、如し。凡そ家庭教育は父母の一方のみにては完全に施すこと能はず、必ずや父母共に共力一致以て之れに當らざる可らず。

●衣服の汚點抜き

インキで汚れた時は、アンモニヤ水とアルコールを等分位に混じ、筆か小刷子で幾度も塗るので、すると自然々々に落ちます油脂類は毛織物の上に敷き、揮發油を塗りそして吸取紙で吸ひ取るのです、用具は前申した品でもよく、また海綿でもよろしい、敵は最初日光に晒し、ブラツシでよく掃き後アンモニヤの薄い汁で洗いなさい、夫から婦人方によくある小兒の尿の掛つた時です是は薄くしたアルコールに少量の硝酸を混じて洗へばよい、併し硝酸は地を痛める憂がありますから、使用には餘程注意しないといけません、之を替りてみて酔味を感じぬ位でよろしい